

■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 16-17. (2017).

タカハシホタテの左殻・右殻の見分け方について  
田中三郎 (沼田町化石館 指導員・滝川市博物館クラブ)

How to identify the right and left shells of *Fortipecten takahashii*  
Saburo TANAKA (Numata Fossil Museum, Takikawa City Museum Club)

1. はじめに

タカハシホタテ (*Fortipecten takahashii*) の生息年代は中新世末期から更新世初期 (約 700 万~100 万年前) とされ, その分布は福島県から北海道, サハリン, カムチャツカの北西太平洋域で, 日本でも有名な化石の一つに数えられていて鮮新世の冷水系「滝川本別動物群」を代表する二枚貝とみなされている (速水, 1996 ; 中島, 2007).

保存のよい現地性の合弁個体が得られるのは, 北海道沼田町の幌新太刀別川河床や雨竜川河床, 滝川市の空知川河床で, 幼貝から成貝まで様々な成長段階の個体が得られる. 著者は 30 年間で合弁個体 1000 個以上, 左右別々の殻は 300 個以上採集し, 滝川美術自然史館を主に, 一部沼田町化石館に収蔵してある.

本稿では, 不完全な殻を含め左右合わせて 300 個体以上を観察し, 左右殻の違い, とくに見分けにくい幼貝における左右殻の識別方法を解説した. なお, 本稿では, 殻高 69mm 以下を幼貝, 70~79mm を中貝, 80mm 以上を成貝とした (計測値は表 1). 本稿で使用した標本は沼田町化石館に収蔵されている. 用語については中島(2007)に従った (図 1,2).

2. 左右殻の識別

1) 右殻は変曲が著しい

成貝における右殻が極端に変曲している. この現象は幼貝の中頃から現れるのに対して左殻は右殻のような大きな変曲が見られない (図 2).

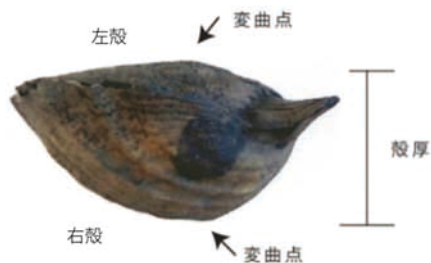


図 2. 成貝の左右殻の変曲点の比較.

2) 右殻耳状部にみられる足糸湾入  
右殻を外側から観察すると, 後耳状部 (左側) は直線に近いが, 前耳状部 (右側) には足糸湾入と呼ばれる切り込みがみられる. 左殻の前後の耳状部には足糸湾入が見られない (図 3).



図 3. 右殻にのみ足糸湾入がある.

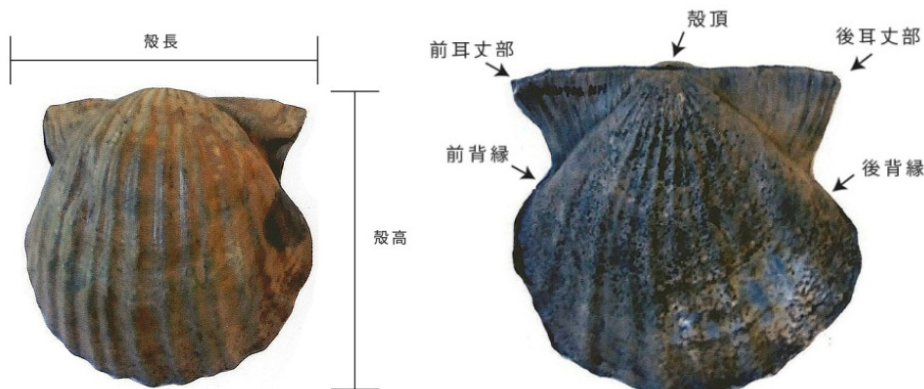


図 1. 成貝の右殻. 計測値および部位名.

■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 16-17. (2017).

3) 左殻殻頂部の突出

左殻の殻頂部は鉸線（耳状部の背側の直線部）から突出しているが、右殻ではこの特徴は見られない。この特徴は幼貝ほど顕著に現れている（図4）。この特徴は現生種のホタテガイでも見られる場合がある。



図4. 左殻のみ殻頂角が耳より強く張り出す。

4) 生痕化石の付着

中貝から成貝の左殻にはフジツボ類や多毛類の付着および穿孔痕が多く見られる（図5）。一方、右殻や幼貝には痕跡がほとんど見られない。



図5. 左殻には付着生物が多く見られる

3. まとめ

タカハシホタテの左右の貝殻の特徴は、成貝であると殻の膨らみの違いで明らかであるが、幼貝や破片があるとその違いは明確ではない。幼貝では、右殻であれば前耳状部にある足糸湾入、左殻であれば殻頂部の突出が見られれば、左右殻の識別が可能になる。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、古沢仁博士（元・沼田町化石館、現・札幌市博物館活動センター）からタカハシホタテの文献をいただいた。中島礼博士（産業技術総合研究所）には原稿を読んで頂き、有益なご意見等いただいた。篠原暁学芸員（沼田町化石館）には本稿作成に有益なご意見等いただいた。田中嘉寛博士（沼田町化石館）には本稿執筆を促して頂き、原稿へのご意見、英語タイトル、要旨をつけて頂いた。お礼申し上げます。

引用文献

中島礼 2007. タカハシホタテっていったいどんな生物?. 化石(81): 90-98.  
 速水格 1996. 軟体動物 他 Part II 21 タカハシホタテ. Retrieved 16 Sep 2016  
[http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish\\_db/1995collection2/tenji\\_nantai2\\_21.html](http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/1995collection2/tenji_nantai2_21.html)

Abstract

300 individuals of a famous pecten species, *Fortipecten takahashii* from Numata Town and Takikawa City, Hokkaido, Japan were examined to identify the right and left shell of smaller or prematured individuals (less than 69 mm height). As the result, the right shell can be identified from the left as having a curved lateral surface; a curved and strongly excavated byssal notch. The left shell has a dorsally projected umbo.

表1. 本稿で用いたタカハシホタテの測定値

標本	殻高 (mm)	殻長 (mm)	殻厚 (mm)	殻頂角 (°)	放射肋 (本)	備考
NFL 2636(図 1,2)	1 4 5	1 5 0	1 0 8	1 0 8	1 4	合弁
NFL 2637 右殻(図 3) 左殻	1 1 2	1 1 1	3 0	1 0 3	1 4	合弁
	1 1 0	1 1 1	1 5	1 0 3	1 4	
NFL 2638 右殻(図 4)	1 8	1 7	3	9 4	1 4	単個体
NFL 2639 右殻(図 4)	2 4	2 4	5	9 7	1 3	単個体
NFL 2640 右殻(図 4)	3 2	2 9	9	9 6	1 3	単個体
NFL 2641 左殻(図 4)	1 7	1 5	3	9 6	1 5	単個体
NFL 2642 左殻(図 4)	2 5	2 4	4	1 0 2	1 3	単個体
NFL 2643 左殻(図 4)	3 0	2 8	4	1 0 2	1 4	単個体
NFL 2644 右殻 左殻(図 5)	1 0 3	1 0 3	2 4	9 2	1 4	合弁
	9 8	9 3	1 3	1 0 3	1 4	